

「わたしと生協」

三十年前、広島市安芸区に嫁いできたとき、呉にある夫の実家を訪れると、義母も義姉も生協の大ファンで新米主婦のわたしに生協のことを熱く語ってくれた。

それから広島にも生協が誕生し、わたしも近所のママ友たちを誘って共同購入を始めた。子連れでの買い物の大変さから解放されたばかりでなく、安心安全な生協商品のコンセプトはわたしたちにぴったりだった。班会もとても楽しくて、生協を通してわたしたちの結束はますます強まっていたように思う。その後わたしたち一家は隣町に引っ越すことになったが、引越し先でも生協の共同購入のおかげですぐに地域にとけこむことができた。

それからほどなくして、夫の転勤で4年間アメリカに駐在することになった。年間を通してほとんどが晴れた日であるカリフォルニアでの生活は快適で楽しいものだったけれど、生協の商品が買えなくなり、食の安全という点では不安なことだらけだった。乾物や缶詰は日本から送ってもらうことができたが、輸送費が商品価格と同じそれ以上にかかってしまうので、一時帰国したときは一口こうや豆腐や子どもたちのおやつなどの生協商品をギッシリとスーツケースに詰め込んで行った。そして決して無駄にすることのないよう、大切に計画的に食べるようにしたのも、今ではとても懐かしい思い出である。

帰国後は安芸区内のニュータウンに移り住んだのだが、ここでも生協の共同購入のおかげで良き友人たちを得ることができた。七年前には介護が必要になった母を松山から呼び寄せたのだが、母の通院帰りによくコープ船越店に立ち寄り、車いすをお借りして買い物を楽しむことができた。認知症の症状が出始めていた母も、美味しくて体に良いお惣菜を選ぶときはとてもうれしそうにしていた。介護につかれ気味だったわたしも、そのひとときはゆったりとくつろぐことができて、母が亡くなった今、とても良い思い出になっている。

母が亡くなった翌年の2009年の夏には鹿児島への視察旅行に参加させていただいた。お茶やうなぎなどの生産者の方たちから直接お

話しを伺えて、商品への信頼もより厚いものになった。生産者の方の情報がきちんと利用者に届くことも、生協の大きな魅力の一つだ。こうして振り返ってみると、わたしの結婚生活はまさに生協ひろしまとともに歩んできたのだなぁとつくづく思う。

2000年4月にコープ矢野東がオープンしてからは、共同購入から店舗利用に切り替えたが、夫の両親が高齢になって呉の実家に頻繁に通うようになったので、今後はスマートフォンで注文できる便利なシステムのeふれんずにも登録したいと考えている。他のサービスも充実してきているので大いに利用したい。

広島市 安芸区 大澤 優子